

入院患者の重症度・医療・看護必要度の検討

～7：1の看護基準を維持するために～

三ツ倉裕子¹⁾ 見田野直子¹⁾ 高橋陽子¹⁾ 美原盤²⁾

1)脳血管研究所美原記念病院 看護部

2)脳血管研究所美原記念病院 院長

[目的]平成28年度診療報酬改定で7：1看護基準の病棟に求められる重症度・医療・看護必要度の要件(要件)を満たす患者は、平成27年度の当院急性期病棟の入院患者にあてはめると23%と計算された。そこで7：1の看護基準を維持するために要件を満たさない患者について調査した。

[方法]平成27年度の診療日のうち10日をランダムに選択し、その日の入院患者の疾患名、在棟期間(病日)別の要件を調査した。

[結果]10日間の入院患者359名中要件を満たさない患者は275名だった。疾患は脳梗塞が多く、在棟期間の長い患者はクモ膜下出血と脳挫傷が多かった。要件については、在棟期間によって各患者のA項目に明らかな差はなく、B項目は長期在棟患者において点数が高かった。

[結論]要件を満たさない患者は、在棟機関が長く、重度の機能低下を持つ患者が多く、適切な時期に転棟させることが望まれ、後方病棟との連携が重要となる。